

高井戸中学校

区立高井戸図書館と繋がる学校図書館 ―アンネとともに―

今の学校図書館

本校の教育目標の一つ、「将来、自分自身と社会に役立つための知識と教養を主体的・積極的に身につける生徒」を育成するため、学校図書館は、「読書センター」「学習センター」「情報センター」として活動する。

学校図書館の運営

【読書センターとして】

授業、学校図書館だよりによる広報、図書委員会の活動の中で、読書への動機づけとなる活動を行っている。

【学習センターとして】

「今、授業で学んでいることに関連する、また深められる本」(今授本)コーナーと、各種情報カードを揃えた「探Qコーナー」を常設している。

【情報センターとして】

進行形の学びに即した資料を収集する。学校図書館ボランティアの協力を得てSDGsや職業のスクラップブックを作成している。



特色ある取組

【アンネとともに】

平和について考える本を収集した「アンネのバラ文庫」を学校図書館内に設置している。バラの一般公開時には、一般に向けたアンネのバラ文庫の展示とアンネの部屋を再現した展示を行っている。

各学期始めの読書週間に設置する学級文庫には、平和について考えるきっかけとなる本を必ず含め、選書している。



【高井戸図書館との連携】

年度初めには、新1年生に対して、図書館の利用ガイダンスを共同で実施。利用案内と共に、区立図書館利用カードの作成を促している。年間を通して、昼休みに高井戸図書館へと繋がる扉を開放し、生徒は自由に行き来できる。

今年度は、学校図書館でシャンティ国際ボランティア会主催「絵本を届ける運動」のワークショップを開催した。高井戸図書館は、このワークショップに関連する展示を行った。学びを深める、広げる連携を取っている。



1年間の主な活動

- ・学校図書館ワークショップ(高井戸図書館協同)
- ・「杉並区子ども読書月間標語」への参加
- ・読書会(国語科・2年生)
- ・「すぎなみ本の帯アイデア賞」への参加
- ・ログインボーナスなど、図書委員会による企画
- ・給食室×学校図書館「文豪給食」

これからの学校図書館

資料の充実とともに、教科横断で活用できる情報カードを使った、探究学習の授業実践が増えてきた。校内で実践事例を共有し、情報活用能力育成の中心となる学校図書館を作っていきたい。